

刊夕 日十二月十



（日一廿月三年五和昭）（刊日） 新 い わ き （日曜金） 第七百六十四號 （一）

座講識常
一、英トンは二二四〇ポ
ンドのこと、我が二百
七十、九、四、五、九、九、七、二、に
六、九、三、四、一、一、七、二、に
當り我が國の、實目は
三、キ、ロ、グ、ラ、ム、七、五、五、八
ポンド二六七三に同一

平町の水道擴張部

残務整理今日満期

事務工務共に經常部に移る

七名の職を解かれる

平水道擴張工事に於ける用になるが、尚ほ水道部には、
残務整理期間は今日限整理可能の方面もあり、此の
の爲め諸般の整理を急いで職制を變へて課長級の後
で、たが工事及び事務の現任者を決することになる。模
状は大體完成し細事に亘る様であるから、年久しく特別
僅少が残つてゐるのみで本會計としての情弊に流れ、
日午後伊坂水道部主任から欠陥が改められる上に、經費
酒井町助役に整理の諸帳簿の點に於ても若干の節約が
を引續き全部經常部に移つて出来るであらうと。

縣下組合結束して

炭檢の縣管に反對

辛苦を嘗めた民間事業の横取
壓白も甚だしいこの叫び

縣下の木炭同業組合が明年聯合會に向つて評議員會の
度から實施され様とする。本招集を請求し近く同告知あ
炭檢査の縣移管に對し大同を待たれてゐる一方に於
團結を以て反對を唱ひてゐる。組合の結束益々堅く反
ることは既報の如く、過般郡 對期成同盟會長に推された
山市に開いた組合大會は、濱通木炭組合長の早川清久
が所記の計畫を目論見ながら、氏同副會長長草野米彌、高原
ら未だ評議員に一應の諮問、塩谷雄外實行委員
なきを不都合であるとなしに左記を上げて多年民間が

艱難辛苦を嘗め今日の發達は相當の紛擾を免かれま
を見たる同事業を俄かに奪と見られてゐる。
取せんとするが如き民業壓
迫も甚だしいもので殊に縣
管に移されて後の結果は費
物檢査が縣に移管された當
時に想像し兎角當業に對
て威嚇的に出づるの嫌ひあ
り且つ人事關係に至りては
甚だしき情實を認め公平無
視の範を垂るべき官廳が一
所長の感情等に左右さるゝ
もの尠なからざる現狀に徴
して、も有益でないと呼ばれ
てゐるから右移管の實現に

報酬なしで四ヶ年

報上し學校を寄附

慈父の如く親はれる神谷村長
留任懇望に胃潰瘍を病む

石城郡神谷村は現村長佐藤百圓を以て二階建五十二坪
久三郎氏の就職以來自治の女子裁縫校を新築寄附の
實價を高めてゐるのである。はずで既に現小學校敷地内
十二月六日の満期を控へ、同地に地割を終り近く着工する
氏の留任の希望されてゐることになつてゐる同校舎は
が冒瀆湯の爲め再起の謝絶、明春の學期始めより開校の
を見越して此の村議代表者が豫定であつて佐藤氏の美譽
名目のみにてもと懇請せるはこれのみに止まるもので
も固辭するに至り結局現は、なく村民から慈父の如く
助役片寄爲藤氏の昇格より親はれてゐる。
餘儀なからうと見られてゐる
佐藤村長は在職四ヶ年無
報酬を以て村政の改善に盡
したる上に今回また二千三
石城郡勿來町に於ける救濟

救濟土木

二ヶ村の

馬の共同

運動場

新築落成開業披露

平町では、昨春に於ける就學小學校の卒業生は約四百名
兒童の調査に着手したが、現である出入三百餘名の増加
在の豫想では昨年の就學實數であつて昨年各校に收容さ
數六百八十四名に對する約れた實數は
一割増加の七百五十名位か
校、（女）二四六、第三校
と見られてゐるが町内三ヶ
校、（女）二四六、第三校
のである
共同運動の所要面積
とすれば楕圓形の共同運動
楕圓形の運動場の外柵と内
柵の間に三三三二平方メートルである
外周二百八十八平方メートル（七二
四坪）△外周三〇〇米一
六五間）面積五三七〇平
方米（一六二七坪）△外周
四〇〇米（一二〇間）面積

（男）七六（女）九二
になつてゐる此の振れ合よ
り見て第一校三百名、第二
校二百六十名、第三校百九
十名の入學を見るもの、如
如何に切り詰めて一學級
以上の増加の爲めに本年は
辛ふじて之れを收容すると
しても昭和九年度の新學期
までは第四校を新設する
か又は他に途を講じなければ
ならず何れにしても來る
新築算に學校舎建築費の計
上は免かれまいと見られて
ゐる。

時秋皆々様彌々御清祥至慶に存じます
借て過般類焼の際は何彼と御高配を賜はり誠に有
難御禮申上ます、爾來新築中の弊店この程愈よ完
成致し本月十七日より開店致しました倍舊の
御愛顧を御願申上ります
尙三階大廣間の宴會席御利用には格安の御相談
に應じます、又食堂部では
牛鍋御飯付三十五錢、御酒一本三十錢で
大々的の勉強を致します
昭和七年十月 平町字出町 電話四三三
石川亭

新築落成開業披露
時秋皆々様彌々御清祥至慶に存じます
借て過般類焼の際は何彼と御高配を賜はり誠に有
難御禮申上ます、爾來新築中の弊店この程愈よ完
成致し本月十七日より開店致しました倍舊の
御愛顧を御願申上ります
尙三階大廣間の宴會席御利用には格安の御相談
に應じます、又食堂部では
牛鍋御飯付三十五錢、御酒一本三十錢で
大々的の勉強を致します
昭和七年十月 平町字出町 電話四三三
石川亭

川前の紅葉に
響き遠足
半地方に於ける唯一の秋の
行樂地である川前村江田附
近の紅葉類は本末頃から
の見頃を豫想されてゐるが
縣下磐城高女では來る二十
五日以後の好日を選び同地
に全生徒の遠足運動會を催
し往路を平驛から早朝川前
驛まで汽車、歸りを同地か
ら徒歩を以て沿道四里余の
探勝をなす筈である期日は
多分二十九日頃になるであ
らうと。

馬は生れてから一週間後
位から母仔共に追遶運動
場に於て静かに運動させ
（八八六一坪）△外周八〇六分）で追遶運動をさせ發汗
（米四四〇間）面積三八
一九六ヘクタール（一一

平町町の就學兒童
七百五十名の豫想
各校共に一學級以上の増加
新築算に學校の建築費

新築落成開業披露
時秋皆々様彌々御清祥至慶に存じます
借て過般類焼の際は何彼と御高配を賜はり誠に有
難御禮申上ます、爾來新築中の弊店この程愈よ完
成致し本月十七日より開店致しました倍舊の
御愛顧を御願申上ります
尙三階大廣間の宴會席御利用には格安の御相談
に應じます、又食堂部では
牛鍋御飯付三十五錢、御酒一本三十錢で
大々的の勉強を致します
昭和七年十月 平町字出町 電話四三三
石川亭

馬は生れてから一週間後
位から母仔共に追遶運動
場に於て静かに運動させ
（八八六一坪）△外周八〇六分）で追遶運動をさせ發汗
（米四四〇間）面積三八
一九六ヘクタール（一一

産業方

結球白菜栽培法 (三)

石城分場 矢ヶ崎技手
 前作の關係も充分注意して行ふ必要がある、前作を甘藍として其の後作とする場合の如きは前作に腐敗病の發生した事があるならば極めて危険であるから注意しなければならぬ、大根の後作も同様である
 品種、結球白菜の品種も數へ来たならば相當に多品種であるが各々その異なる性質を有してゐるものである、其の重なるものは芝菜白菜、山東結球白菜、關城白菜、直隸白菜、抱頭連白菜、金州白菜、野崎白菜等その他種々なるものがある然しながら代表的な品種二種だけを記す事とする。
 芝菜結球白菜、古から有名な品種で其の性質を記すれば葉色濃緑にして葉の表面に毛茸を有し且つ葉面に皺ありて葉邊は波状をなし疹状のものあり葉身は短大である。結球は極めて容易で收量多く寒氣に貯藏に且つ長距離輸送に耐へる品種である元來は晩生種であるが我が國に於て種々改良を加へられた結果比較的早生の品種もある本縣産大島白、丸森白、會津白、その他松島白、茨城白等は何れも芝菜系であるが

特に本縣産の種子は優にして全國的に有名である。

牛も豚も優良品の自慢

町田 平字 三三三屋 御命は 肉の御用

難波醫院

内科 醫學博士 難波睦
 一般 博士 難波睦
 平町大町新川端
 (電話五〇二番)

お醤油は

醤油味噌
 たひら正宗
 鯉節食料品

明治生命

代理店



山崎合名會社

電話(本島) 二七〇番
 電話(本島) 二七〇番
 山崎與三郎

カキ貝御料理

産名島松
 カキフライ 二十五錢
 カキなべ 四十錢
 スカキ 二十錢
 ランチルーム 一の井
 御料理 電一六七番

煙突は 朝日
 石綿セメント製
 絕對に はげない
 やけにくい
 くさらない
 経済的で 火災の心配がない
 全産商店

破格の勉強で歓迎される
 静岡本場 大角園特約
 小笠原茶 半谷商店
 平町大町若松病院隣

共濟病院案内

院長 醫學博士 石山謙郎
 内科 醫學博士 石山謙郎
 小兒科 醫學博士 佐久間粹
 外科 醫學博士 柱重次
 喉科 醫學博士 有馬勇二郎
 産婦人科 醫學士 五十嵐雄二
 X光線科 醫學博士 石山謙郎
 衛生試驗所 醫學博士 石山謙郎
 技師 高後利雄
 藥局 藥劑士 吉本幸平
 診療時間 午前八時より午後五時迄
 (但急患は此の限りに非ず)
 平町 共濟會 電話六四二番

移轉のお知らせ

從來の館では手狭であり尚ほ新館建築の計畫もありませんので左記に移轉いたしました。

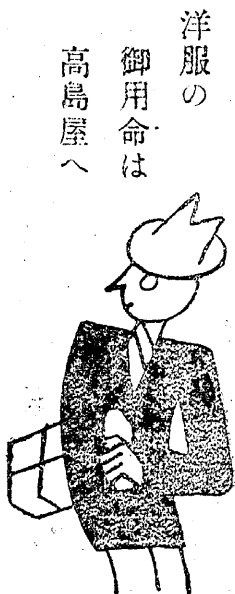
美術専門 齊藤寫眞館

元公會堂池の端 平町字大町五
 電話(呼六三七)

外科 整形外科 醫學士 内木宗八
 産科 婦人科 院長 木村寅次郎
 平町新川町一九
 (電話二六四番) 木村病院

信
 洋服を美しくする
 高島屋洋服店
 平町新川 電話三八六番

地方代理店 五丁目 山野邊藥局
 特約店を募集す



諸毒下ろすの妙藥
 安流丸
 特約 山野邊藥局

生命と信用を賭して精製せる純良の質...
 お化粧用 十錢
 洗濯用 十錢
 壹打 十錢

平町 4 電140